

「野口哲哉展 -野口哲哉の武者分類図鑑-」を開催

鎧武者に魅了された注目の美術作家の初期作品から最新作までを展示

アサヒビール大山崎山荘美術館



《シャネル侍着甲座像》2009年
CHANEL SAMURAI
© Tetsuya Noguchi
Collection: CHANEL K.K.

アサヒビール大山崎山荘美術館（京都府乙訓郡、渋谷谷久館長）は、今年4月19日から7月27日まで企画展「野口哲哉展「野口哲哉の武者分類（むしやぶるい）図鑑」（主催・アサヒビール大山崎山荘美術館、朝日新聞社、後援・京都府、大山崎町、大山崎町教育委員会、エフエム京都）を開催している。

れ、初期から現在まで野口哲哉のほぼ全作品といえる約90点（会期中展示替えを行う）が歴史豊かな「天王山」、大山崎の地にある同美術館に集結している。

身の丈4寸のサムライが誘うバーチャルリアリティ

1980年生まれの野口哲哉氏は樹脂やプラスチックなど現代的な素材を駆使して古びた姿の鎧武者を造形し、それらの織りなす嘘とも現実ともつかない魅力的な世界観を構築する美術家で、南蛮渡来のシャネルのマークを家紋と

した甲冑を身にまとった紗練家（しやねるけ）の武者像《シャネル侍着甲座像》がある一方で、自転車に乗った武士が出陣するさまを描いた《着甲武人自転車乗車出陣影》は当時あたかもそんな武者がいたかのようにな巧妙に古びた画面を演出している。

また、野口氏の作品世界の大半は武士を主題にしたが、現実には存在しない、同氏曰く「でっちあげ」の世界なのだが、サムライ、甲冑への知識に裏付けられた空想世界は実に豊かで、史実とははざまを行き来するユニークで独創的なものとなっている。

加えて、甲冑の表現の正確さや、サムライたちの立ち振る舞いは格好良さのなかにも常に滑稽さや哀しさが漂って



《Rocket Man》2007年

おり、その姿は現代人と同じか通じるものがある。

作家はまだ30歳代半ばで活動期間は短くといえ、コレクションは国内外におよび、展覧会出品作や個展の評価も高く、今まさに注目される美術家の一人。同展は一貫して鎧武者をモチーフに制作する野口哲哉氏の武者世界を紹介する初の試みとなる。

春の講談やギャラリー
トークなど実施

同展の主な展示作品は《Rocket Man》(2007年、樹脂、化学繊維など、高さ8・5cm)、《Talking Head》(2010年、樹脂、化学繊維など、高さ86・0cm)、《ポジティブ・コンタクト》(2011年、樹脂、化学繊維など、高さ95・0cm)、《着甲武人自転車乗車出陣影》(2008年、紙本アクリル彩色、77・8cm×41・3cm)、《シヤネル侍着甲座像》(2009年、樹脂、化学繊維など、高さ78・0cm)などで、関連イベントとして春の講談「山崎大合戦」(5月11日、会場・



《着甲武人自転車乗車出陣影》2008年

本館1階展示室2、出演・旭堂南青へ上方講談師、定員・各回40名/要申込・先着順、参加費・500円、ただし美術館入館料は別途必要、学芸員が展覧会の見どころを解説する「ギャラリートーク」(会場・展示室、展覧会期間中の第2・第4土曜日/4月26日、6月14日、7月26日を除く、参加費・無料、ただし美術館入館料は別途必要、事前申込不要)なども開催される。

このほか、本館2階喫茶室では展覧会期間中、カフェ企画として野口哲哉氏の作品世界から想を得た和のテイストを感じさせる限定メニュー「もののふの夢」(リーガロ



《Talking Head》2010年

イヤルホテル京都が同展のために考案した3種類の特製オリジナルケーキ/抹茶と柚子ヨコとドライマンゴのケーキ、みかんと竹炭のケーキ、各500円・税込)も提供している。なお、野口哲哉氏の略歴は次の通りで、同美術館の常設展示の館蔵品からはクロード・モネの《睡蓮》や民藝運動ゆかりの名品を鑑賞することもできる。

【野口哲哉氏の略歴】
1980年、香川県高松市生まれ。1999年、広島市立大学芸術学部油絵科入学。2000年頃から油彩画制作

と並行して樹脂粘土を使用した立体作品の制作を開始。2005年、広島市立大学大学院修了。2007年・「現代アーティストによるLEMON DEDECOCO」(シヤネルネココの世界)・東京、TCA



《ポジティブ・コンタクト》2011年

と並行して樹脂粘土を使用した立体作品の制作を開始。2005年、広島市立大学大学院修了。2007年・「現代アーティストによるLEMON DEDECOCO」(シヤネルネココの世界)・東京、TCA F2007、2008年・アートフェア東京2008、「NETWORK JAPAN PROJECT」(Inter Allia、ソウル・韓国)、個展「野口哲哉展」(武士道とは夢見ること見つけた) (TCAF2008、ギャラリー玉英ブース)、2009年・「医学と芸術・生命と愛の未来を探る」(森美術館、東京、2010年・「BASARA」展(スパイラルガーデン、東京)、「甲冑の昔と今」(ギャラリー真玄堂、東京)、2011年・芝浦工業大学メインビジュアル担当、「ポジティブ・コンタクト 野口哲哉展」(松坂屋名古屋本店)